

熱気最高潮 太鼓まつり

「よっさー、よっさー、ドンドンドン」―八幡の夏の到来を告げる「太鼓まつり」が、7月17、18日に開催。担き手らは、多くの見物客が詰めかけた参道を勇壮に練り歩きました。

18日に各地区の屋形みこしが高良神社前の参道を練り歩く「宮入り」で、祭りムードは最高潮に達しました。高良神社前に一区、二区、三区、六区の屋形みこし4基と千と



勇ましい掛け声と太鼓の音を響かせ参道を練り歩く屋形みこし

屋形みこしを「よっさー」

もみこし3基の計7基が集結。担き手が屋形みこしを力強く右左に揺さぶるながら参道を練り歩き、威勢のいい掛け声を夏の夜空に響かせました。

同まつりは、石清水八幡宮の撰社・高良神社の例祭で、今から約180年前(文政年間)、太鼓をのせた大きな屋形みこしが町内ごとにつくられ、勇壮な太鼓まつりの姿に発展したと言われています。

大阪市音楽団の団員から指導を受ける吹奏楽部員



プロの指導でスキルアップ

吹奏楽部員 楽器の扱い方や呼吸法を学ぶ

八幡市内の中学・高校を中心とする吹奏楽部員約100人が7月4日、八幡市文化センターに集まり、大阪市音楽団団員20人から演奏の手ほどきを受けました。

文化センターの主催で、夏に行われる大会に生かしてもらおうと狙い。参加した部員は、楽器の扱い方や手入れなどの基本的なことから演奏技術など約2時間半の指導を受けました。

楽器のパートごとの演奏に分かれてレッスンをスタ

ート。団員は部員に呼吸法や指の使い方を細かく指導。また、微妙な音の響かせ方などのテクニックを披露しました。部員は注意深く耳を傾け、またとない機会を逃すまいと熱心に質問をし、繰り返し練習しました。

同団副団長の辻浩二さんは「プロの奏でる音色や指導を間近で聞く機会はそうないと思う。いろんなことを学び、能力の向上につなげてほしい」と、話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介していきます。身近な話題や、広報紙にこの意見を、秘書広報課までお寄せください。

限りある資源を大切に！

発電機や電球使い実験・工作

山梨公民館で7月10日、子どもたちの科学への関心・興味を育もうと、公民館講座「関電親子電気実験教室」が開催されました。講師に招かれたのは関西電力株式会社の職員2人。参加した12組の親子は、実験や工作を通じて発電の原理や環境について学びました。

最後に、ペットボトルで羽を作った風車と、発電機に取り付けたLED電球を組み合わせて、風力発電機を完成させました。

職員は親子らに「エネエネの実験では、ハンドルを回すと豆電球は重く、LED電球は軽い力で点灯で



ペットボトルを使った風力発電機を作製する親子

子ども会議 みんなでまちの未来を考えよう！

7月17日、自分たちの住むまちについて考える平成22年度「八幡市子ども会議」が文化センターで開催。小中高生32人が委員となり、今後取り組むテーマについて話し合いました。

同会議は、将来の土壌づくりとして子どもの立場から議論・提言することが目的。立命館大学政策科学部の稲葉光行教授や同教授のゼミで学ぶ学生もサポート役として協力します。

委員は4班に分かれて議論開始。環境対策に的を絞った班では「清掃活動にポイント

付けて、集まったポイントとエコ商品を交換する」といったアイデアが出されました。ほかの班では「テーマごとに八幡市のキャラクターを作ろう」「八幡市の隠れた名所を紹介しては」などの意見が挙がりました。

今後は約8カ月間、調査や研究など約5回の会議を重ね、まとめた内容を市長に提言する予定です。

稲葉教授は「1回目にしてはまとめ方もうまく、良かったと思います。この会議を通じて、自分の意見を発表できるような市民になってほしい」と話しました。



研究テーマについて話し合う子ども会議のメンバー